

式 辞

石鎚の稜線が早春の朝日に輝き、道前平野が芽吹きの日を迎える今日の佳き日、御来賓の皆様の御臨席を賜り、愛媛県立東予高等学校第六十回卒業証書授与式を、かくも盛大に挙行できますことは、大きな喜びであります。御臨席賜りました全ての皆様に、心から厚くお礼申し上げます。

保護者の皆様、本日は誠におめでとうございます。心よりお喜び申し上げます。皆様が大切に慈しみ、ここまで立派にお育てになったお子様が、高等学校卒業という節目の日を迎えられたことに、心からのお祝いを申し上げます。

卒業証書を手にした卒業生の皆さん、卒業おめでとう。

三年間の高校生活は、様々な思い出に満ちていることと思います。友との語り、師と仰ぐ教職員との絆、目標に向かって励んだ日々、喜びに心弾んだ日、人知れず涙した日。すべてが、皆さんの心と身体をつくってきた、かけがえのない経験です。この東予高校で培ってきた、思いやりの心とたくましく生きる力で、実社会を明るく力強く生き抜いてください。

卒業生の皆さんの学生生活を、コロナ禍の影響抜きにして語ることはできません。中学校二年生の終わり、学校は一斉臨時休校に入り、社会生活はもちろん学校活動も混乱を極めました。コロナ禍の中で中学校最後の年を送り、高校に入学してからも感染症対策を最優先にした学校生活を送ることになりました。我慢の続く日々の中で皆さんが身に付けた、状況を冷静に見極める力、不安や不満を考えることで整理する力、人を思いやる気持ち、支えてくれる人への感謝、困難を仲間とともに乗り越えようとする姿勢は、皆さんの今後の人生に大いに役立つスキルとなるはずです。

皆さんが高校二年生になった際、本校は二年間中止していた修学旅行の再

開を決めました。これは県下の高校において先陣を切る決定でもありました。その年の東予高校新聞に、代表生徒の感想文が掲載されていましたが、その中に、感謝の言葉とともに「新型コロナウイルスの影響で今年も行けないと思っていました。そんな中でも行かせていただき、一生の思い出もできました。本当に良かったです。」という言葉がありました。保護者の皆様の御心配も尽きなかったことと思いますが、無事実施できましたのは、御家庭の御理解と御協力があってこそと深く感謝しております。

二月の創立記念日に行われた課題研究発表の講評に際して、今年の元日に起こった災害に触れ、災害時の救助や復興に当たって待たれているのは人の力、とりわけ技術者の力であるという話をしました。人の暮らしを豊かにすること、便利にすること、安全を守ること、そういった人の幸せに貢献する技術者の力は、未来がどんなに複雑な仕組みの下に展開したとしても、変わることはない大切な力であると考えます。皆さんは三年間、「ものづくりの持つ力」を学んできました。皆さんが身に付けた「人の幸せに貢献する力」を、これから皆さんが就くどの仕事においても存分に発揮してください。

「ああ 新しき地平線 われらが前に 展けたり」

これは校歌三番の一節です。今、皆さんの目の前には、新しい未来が、果てしない地平線のようにどこまでも広がっている、と謳っています。

どうか、身体を大事に、命を大切に、人に優しく、皆さんの今後の御活躍と幸福を切に願って、門出を祝う式辞といたします。

令和六年三月一日

愛媛県立東予高等学校長 渡邊 琴子